建築とリフォームの情報紙
技のリフォーム HOT PRESS
2006年8月
編集・発行／
技ネット株式会社

［特集］技

憧れのマイホームづくり
～中古物件を買ってリフォーム～

設計士が自らの家をコーディネート

矢後さんは、できあがる建物をイメージして図面を制作する設計士。顧客の思い描く建築物をプランし、資材の選択、デザイン、設備へと落とし込むかたわら、理想のマイホームをイメージしてきた。

様々な思考をめぐらせた結果、平成17年、富山市の中心市街地に建物つきの土地を購入。鉄骨造2階建ての建物（屋上つき）をリフォームして住むことにした。

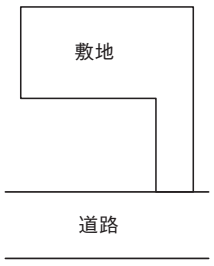
「土地代の安い郊外、景観の良い高台、市街地などいろいろな場所に住むことを考えて構想を練っていました。総合的に考えて購入した土地は、使い方が制限される旗竿敷地（はたざおしきち）（※）で、建物も特異な構造をしていましたが、設計士としてもやりがいがありました。」

既存の建物は、ほぼ骨組みだけの状態になり、以前とは全く異なる内外装材や設備機器によって全体が一新された。

施工前

施工後

※旗竿敷地…奥まった敷地が細く突き出て道路に接する土地。細い部分の用途が限られるため条件の悪い敷地と言われている。



必要最小限の資材で造る

設計のコンセプトは『無駄を極力省くこと』。最小限度の材料で組み立てられた。造り付けの家具は一切置かず、廻縁（まわりぶち）や巾木（はばき）さえも取り付けられていない。また、どこからでも採光できる造りにして、照明は少なく抑えた。

「造り付けの家具は場所を取ります。部屋を広く使うために、家具や照明は必要に応じて置くことにしました。これなら、子どもの成長に合わせたレイアウト変更も簡単です。」

ただ廻縁や巾木は天井と壁、壁と床の間にできる隙間をうめて、カット面の粗さを隠すもの。肌を傷つけず見栄えを良くするためには、きれいな加工が求められた。カンナで削れば加工面は滑らかになるが問題は床が波打っていたことだった。

「いくつもの間仕切りを取り除いたので、既存の床には凹凸ができていました。それに沿って削らなければ、取り付けたときに隙間ができて、見た目が良くありません。」と担当者。

職人がカンナで丁寧に削って調節し、見栄えのする仕上がりとなった。

施工前

間仕切りを取り払い、プレイルームへ

施工後

壁と床の境界に巾木がない

素材の魅力を表現する

また、クロスやペンキもほとんど使用されていない。木材チップの合板（OSB）や石膏ボードが有りのまま壁材として使用されている。

素材の魅力をそのまま表現するために、石膏ボードの取り付けはビスではなく、絵画を飾る際に設置されるピクチャーレールで挟む方法が執られた。

特異な用途だが、新しい雰囲気がかもし出されている。

発展途上の我が家

和室にもコンセプトが徹底されている。壁には下地用珪藻土（けいそうど）のみを塗り、仕上げは施されていない。

「和室の壁は自分で塗りました。荒削りな仕上がりですが、それも愛嬌だと思います。この家には、まだまだ手を付けられる所がたくさんあります。我が家は、これからも、住手（すまいて）とともに変化していくと思います。」と設計のプロは胸を躍らせた。（技ネット）

和室

石膏ボードの上にクロスは貼られていない

わらすさ入りの下地用珪藻土（けいそうど）の塗壁（ぬりかべ）

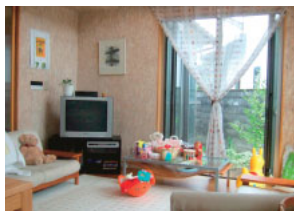
今月のオーナー訪問

矢後さん ご一家

ここにしかない家

工事を担当してくれた技のリフォーム加盟企業の方には、一緒に考えてくれたことに大変感謝しています。こちらの要望に一つひとつ親身になって考えてくれたおかげで、建設当初はまだ固まっていなかったコンセプトが次第に具体的になりました。こだわりをもち続けたので、実現できる方法を考えるのは大変でしたが、とても密度の濃い対話できたと思います。

他にない家ができました。ありがとうございました。



技のリフォーム
0120-183-304（イイワザ ミセマス）